

令和7年度第1回渋谷区総合教育会議議事録

- 1 日 時 (開会)令和7年11月17日(月) 午前10時00分  
(閉会)令和7年11月17日(月) 午前11時25分
- 2 場 所 区役所14階大集会室
- 3 出席者 区長 長谷部 健  
教育長 伊藤 林太郎  
教育長職務代理者 平岩 国泰  
教育委員 加藤 良太郎  
教育委員 田丸 尚稔  
教育委員 松本 理寿輝
- 4 関係職員 副区長 松澤 香  
教育政策課長 齋藤 貢司  
未来の学校担当課長 堀江 崇  
未来の学校担当課長 岡部 尚徒  
学務課長 横手 麻理  
教育指導課長 安部 忍  
教育センター所長 間嶋 健  
地域学校支援課長 山上 ますみ  
学びとスポーツ部長 佐藤 浩行  
学びとスポーツ課長 津々木 晶子
- 5 事務局 総務部長 石井 道久  
総務課長 田中 芳樹  
総務係長 平本 仁志
- 6 議事録 別紙のとおり

【田中総務課長】

＜配布資料の確認＞

【長谷部区長】

それでは、会議に入る。

本日の議題「シブヤ部活動改革プロジェクト 地域クラブ化推進に関する基本方針」について、現在、部活動の地域展開に関して様々な取組をしている。この基本方針についてどのように考えていくべきか、会議で議論し、今後の方向性を整理していきたい。

初めに資料について、事務局から説明をお願いする。

【津々木学びとスポーツ課長】

シブヤ部活動改革プロジェクト地域クラブ化推進に関する基本方針案について説明する。

渋谷区の部活動の地域展開に関する取組の経過について、令和2年9月に国から休日の部活動の段階的な地域移行に向けた方針が示された。渋谷区では全国的にも先行する形で、令和3年度、部活動の受け皿となる一般社団法人渋谷ユニテッドを立ち上げ、部活動改革を推進してきた。

大きく二つの取組があるが、まず初めに着手したものが、令和3年11月から学校部活動にはないクラブを9つ立ち上げ、運営を開始した。2つ目は、令和5年6月から区立中学校の運動部活動に、外部コーチとなるユニテッドコーチを配置する取組を進めてきた。令和5年度に2校、令和6年度に2校、令和7年度に2校実施しており、令和8年度には区立中学校の運動部活動全てにユニテッドコーチの配置が完了する予定となっている。また、令和6年7月には区が一部を出資し、一般財団法人渋谷区スポーツ協会を設立し、一般社団法人渋谷区体育協会と一般社団法人シブヤユニテッドを吸収合併し、事業継承を行っている。

次に、取組の現状と課題についてである。

渋谷区立中学校の部活動の現状は、運動部が13種目、文化部は12種目ある。それぞれ部活動の加入率は、運動部が54.9%、文化部が26.2%となっており、約8割の生徒が部活動に参加している現状がある。

渋谷区の取組について、取組①、学校の部活動に外部コーチとしてユニテッドコーチを配置する推進体制。渋谷区の特徴として、単純に運動種目を指導するコーチのみを配置するだけではなく、各学校の顧問の先生方が担ってきた部活動の会場の調整や、大会引率等も担うことができるクラブマネージャーを各学校に配置することで、教員の負担の軽減を図っている。また、学校の管理職、教員現場指導者の統括的な役割として事業全体調整を行う、スーパーバイザー(SV)という人材も配置している。

取組②、新たな地域クラブの設置。学校部活動にはない生徒のニーズを踏まえた運動・文化の地域クラブを立ち上げ、現在11のクラブがある。実施場所は学校施設、区施設、民間施設などであり、参加者からは参加費を徴収して実施している。一部のクラブでは、小学生や地域の児童生徒も参加可能なプログラムとなっている。将来的にはこのような地域クラブ＝シブヤユニテッド、こちらを地域で展開をしていくところである。

これまでの成果については、教員の働き方改革の視点で、教員の部活動に関する負担感の軽減、あるいは早くこの取組を進めてほしいという声を多くいただいている。また、生徒の視点ではユニテッドコーチへの満足度が高く、楽しく参加できるという声を頂戴している。運動部活動に関するアンケート結果ではシブヤユニテッドの参加者からもポジティブな声をいただいている。

こうしたこれまでの取組の成果と課題を踏まえて、今後の方針策定のための検討委員会を今年度5月に立ち上げた。教育長を委員長、佐藤学びとスポーツ部長を副委員長に、関係所管中学校長、中学校PTA連合会会長、渋谷区スポーツ協会がメンバーとなっている。今年度5月、7月、10

月に、同委員会を開催し、基本方針案をとりまとめている。第1回の検討委員会において、これまで説明したような内容を説明させていただき、各委員から挙げられた主な課題を提示している。過去、総合教育会議でも二度、部活動改革をテーマとしたものが出ているが、その際に頂戴したような内容も含まれている。基本方針案では、令和8年度から令和12年度までの短期的なロードマップを示しているが、この期間に、学校の部活動から地域クラブへ移り変わっていく。部活動と地域クラブ活動の特徴だが、主催・運営、参加対象、指導体制、課題等についても、資料で特徴をご覧いただければと思う。

地域クラブへのロードマップについて、運動部活動については、令和8年度に全ての区立中学校において、運動部活動へのユナイテッドコーチの配置が完了し、令和9年度を準備期間として、令和10年度から全ての地域クラブがシブヤユナイテッドとなっていく。文化部活動については、運動部活動と異なり、ユナイテッドコーチの配置はこれまで行われていなかったが、来年度から吹奏楽部のモデル事業を開始する予定としている。令和8年度に4校、令和9年度に4校を予定しており、令和10年度を準備期間とし、令和11年度から地域クラブのシブヤユナイテッドとなる予定である。ここまでがこれまでの経過とロードマップの内容となる。

続いて、地域クラブ化に向けた基本方針の内容である。基本方針に示す、目指す方向性としては、全ての子どもたちが、生涯にわたり興味・関心に応じて継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保していくことである。渋谷区では全国的にも先行して取組を進めてきたが、令和10年度から新たな展開に移っていく。

1つ目は、平日・休日ともに地域クラブのシブヤユナイテッドに完全移行をする。2つ目は、複数のスポーツ・文化活動に参加できる地域クラブの推進を加速していく。目指す方向性を実現していくために、国や東京都の方針、渋谷区の実績や課題を踏まえて実施した検討委員会の協議・検討を行い、6つの基本方針と29の具体的な取組を整理した。この方針案の作成にあたっては、委員会での議論はもちろんだが、個別に中学校長会、スポーツ協会とも協議をさせていただいた。6つの基本方針にそれぞれ具体的な取組を示している。

基本方針の1つ目については、地域クラブ活動を担う運営団体、実施主体の体制整備。具体的な取組及び方針の概要は、地域クラブの運営団体、実施主体が、渋谷区スポーツ協会になるというところ、地域クラブの運営に当たっては、子どもたちを中心にした実施体制というところである。また、障がいのある生徒の活動機会の確保にも努めていく。

渋谷区スポーツ協会を中心にした体系図については、参加者の窓口となること、また、行政、小学校、中学校、企業との関係はもちろんのこと、旧渋谷区体育協会の加盟団体と連携しながら、この取組を進めていく。

基本方針1の論点については、(5)の会費・参加費の設定についてである。現状の区立中学校の部活動では、年間5,000円程度の部費を集めて、消耗品等を含めた部の運営や大会参加費を捻出しているが、地域クラブになった際には、参加費の徴収を検討している。地域クラブの参加費の案では、月額2,000円から3,000円程度と示している。実際にかかる経費の内訳については、資料の表において、活動にかかる経費と、公費負担、個人負担の考え方を、見やすく整理している。現在の推進校の経費は、参考に示しているような金額がかかっている。将来的に、持続可能な運営を目指すということと、経済的に困窮している家庭の支援策は、しっかり設けていく必要があると考えている。

続いて、基本方針2、活動場所、移動手段の確保である。まさに今、公立の小中学校の建て替えが進んでいるので、学校づくりとも連動しながら、柔軟に対応していく必要があると考えている。地域クラブの拠点となる学校運動スペースを整理している。基本的には現状の部活動が地域で展開されても、学校施設を活用しながら実施していくことを想定している。

基本方針2の論点としては、(3)(4)。(3)のブロックによる整理と種目別の拠点化は、ブロックの整理だが、8つの中学校に点在している部活動があるが、南北のブロックに分けて、種目別拠点

クラブにしていく予定となっている。生徒が、在籍中学校から参加しやすい拠点クラブということの設定も考えている。また、(4)の活動場所への移動については、放課後に、中学校間を移動することが発生するので、その際に自転車利用をどうするのか、また、校舎の駐輪場の配置等についても、検討が必要になる。また、自転車利用に当たっての交通安全対策というのも重要である。

基本方針の3、(1)の段階的な種目別拠点クラブ化の推進では地域クラブになることで、より兼部がしやすくなる。マルチスポーツや、運動部と文化部にも参加できるような状況、環境が整っている。また、平日・休日問わずに地域クラブの活動に参加できるというところが、子供たちにとって非常に大きなメリットと考えている。一方で学校の建て替えの進捗に応じて、状況が変わってくると思うので、柔軟に対応していく必要があると考えている。

2つ目の(2)の魅力的なプログラムづくり、渋谷の取組の特徴として、子供たちに合わせて、部活動にはない種目というのを立ち上げてきたが、そういった子供たちのニーズや思考を大切にしていこうということである。また同じ種目、例を上げると、8つの中学校で実施しているバスケットボールについては、例えば生徒の意識やレベル等の実態を把握してより多くの生徒に運動機会を創出していくというようなところも大切になってくるかと思う。

基本方針3の論点については、(1)段階的な種目別拠点クラブ化の推進で、現状13種目ある運動種目の中から、令和10年度、令和11年度、令和12年度にそれぞれ種目ごとに拠点クラブを設置していくことを考えている。令和10年度については、水泳、柔道、野球、剣道、ボウリング、令和11年度については、硬式テニス、バレーボール、バドミントン、陸上競技、卓球、令和12年度についてはサッカー、バスケットボール、ソフトテニスと、段階的に種目別拠点クラブ化を推進していく。

基本方針4、プレーヤーズ・センタードを支える環境づくりでは、具体的な取組を8つ挙げているが、子供たちを支える環境が、様々あって、先生だけではなく、チームサポーター、コーチ、クラブマネージャー、保護者、そういった方々にも、しっかりプレーヤーズ・センタードの意識を高めていただきながら、取組を進めていきたいと考えている。生徒を中心に、関わる人全てが、ウェルビーイングを実現するコミュニティを目指す。一方で、合理的かつ効率的、効果的な活動を推進していくということを考えている。生涯にわたって、子供たちが、健康的な活動に関わる基盤というのを作っていく。ここでは、体罰、不適切な行為の防止、重大事故防止に向けた安全対策という、極めて重要なことが書いてある。こちらの論点については、地域連携、学校の役割、教員の兼職・兼業があるかと考えている。やはり保護者の理解、協力は非常に重要かと思うので、丁寧な説明等が必要になると考えている。また、地域のスポーツ団体との連携ということも、渋谷スポーツ協会の強みを生かして、今後進めていきたいと考えている。学校の役割もそうだが、教員の兼職・兼業のところについては、渋谷区の特徴となると思うが、原則としては、教員の兼職・兼業を認めないこととしている。平日と休日の活動を一体で進める、渋谷区の取組の実態に即した形で整理しており、教員がやりたい場合は、サブコーチとして指導していただくというところで設定をしている。

基本方針5、大会やコンクール運営の在り方となっており、中学校体育連盟が主催する大会の参加は、子供たちも保護者も、非常に関心が高いテーマとなっており、方向性の整理をしている。大枠は、地域クラブに移行しても生徒が変わらず大会やコンクール等に参加する機会を継続していく。また、中学校体育連盟と連携をして、大会等への出場機会を維持していくことを考えている。まず、具体的な取組の(2)(3)で、令和9年度までの中学校体育連盟が主催の大会については、学校部活動として参加をする。一方で合同チームの編成ということも進んできているので、そこは協議をしながら進めていく。また、(3)で、令和10年度以降、中学校体育連盟が主催する大会については、地域クラブとして参加をしていく。こちらの方針を示しているが、(3)の2つ目にある、令和8年度、来年度に入学する中学1年生が、中学3年生になる中総体までは、学校部活動として参加をして、その後地域クラブに移行していくということを考えている。令和10年7月以降は、渋谷区スポーツ協会が運営する地域クラブの加盟登録を行い、大会に出場する。中学校体育連盟が主催す

る大会については、中学校体育連盟が定めるレギュレーションが徐々に柔軟にはなっているが、そちらに合わせながら、大会に参加していく。また、学校と学校の先生との連携というの、かなり重要になってくると考えており、渋谷区は部活動改革をかなり先行して進めているが、他の地域の中学校では、まだまだ部活動改革が進んでないというような状況もあるため、引き続き学校との連携が重要になってくると考えている。また、地域でできる新たな大会というようなものも今後必要になってくると思う。

基本方針6、地域文化クラブ活動の推進ということで、文化部活動の現状や、今後の方針について提示する。文化部活動の地域展開だが、運動部と違い、モデル事業等も実施できていない状況なので、まずは全中学校にある吹奏楽部の方からモデル事業を開始していく。令和8年度に4校、令和9年度に4校を予定している。また、シブヤユニテッドの充実を図り、よりバラエティ豊かな文化活動を支えていくということを考えている。

その他の論点として、方針の策定に当たって、中学生のワークショップを間に開催をしている。10月10日に実施をした。区内の各中学校の生徒の1・2年生計31人に、お集まりいただき、自分の部活動の現状の課題、未来の部活というのを考えた。非常に活発な議論が行われ、ワークショップで得られた生徒の声にも応えていきたいと考えている。

最後に今後のスケジュールである。令和7年12月15日から、パブリックコメントの実施をしたいと考えており、その後、関係者への周知、もう一度検討委員会を開催し、来年度に向けて、進めていきたいと考えている。

#### 【長谷部区長】

シブヤ部活動改革プロジェクト地域クラブ化推進に関する基本方針について、現状の説明があった。ご意見がありましたら頂戴したい。

#### 【田丸委員】

いくつかその子供たちのワークショップに参加して、非常に現場に近い形になっている。その上で少し補足的に説明をすると、プレーヤーズ・センタードの図は様々な、統括的な、放散的な体制になっている。もともとは先生方が、全てを負担し、1人ないし2人で人数が多い生徒を指導なり管理するという体制だった。少人数の先生により、非常に閉じられた空間になりやすい。これによって、本人の性質はともあれ、体制としては、システム的には体罰やハラスメントなども起きやすいというような問題があったときに、このプレーヤーズ・センタードとここでいうプレーヤーというのが、生徒あるいは児童であるわけだが、その人を中心にしながら、先生だけではなく、専門のコーチや保護者の方、あるいは地域のサポーターの方も、あとは結構顧問業っていうのはかなりたくさん事務作業があり、これがなかなか専門指導員にとって大儀であると思うが、そういった管理業務をやる方も含めた複数の大人が、子供たちを中心に見守る、サポートしていくという体制、これがプレーヤーズ・センタードとなっている。おのずと開かれた場になることで、子供たちが守られる、あるいは体罰ハラスメントが起きにくい、ないしは指導者も閉じられた世界だと非常に不安を抱えるという意味では、指導者を支えるというような役割も担っている。関わる全ての方がウェルビーイングになっていることを言うと、指導者サポート自体もまた、何か規制になるということを守るといよりは、その方たちもコミュニケーションして開かれた場でウェルビーイングを高めていくような、そんなものを目指しているのがこのプレーヤーズ・センタードになるので、非常に良いシステムと思う次第である。

#### 【松本委員】

まず全体的な方向性としても、全国に先駆けて進めてきて、渋谷区がリードしていると感じている。SVの配置や、区としても色々な予算や方針を考えていただき、子供たちのことも考えて進めているところが良いと思う。アンケートからも教員の負担感が軽減されつつあるとか、利用者、参加者

の皆さんから、コーチのへの満足度を含めて、肯定的な意見が出たというようなところも良いと思う。

問いが2点ある。1つ目は、先ほどのプレーヤーズ・センタードで、ユナイテッド、あるいは地域活動、人材確保にポイントがあるのだろうと思っている。あるいは質の保証。人材をどのように確保して質を保証していくのかというところがテーマなんだろうということで、少しこのあたり問いかけをしたと思った。

もう1つは、子供たちの移動をどう考えていくか。休日は自転車で移動しているようなので、安全にしっかりと配慮していけば、中学生であれば自転車も、検討していくのもありなのではないかと思っている。バスを出すとか、公共交通機関を使うとか、そういったこともあるかもしれないが、かなり時間がかかる場合もある。

#### 【津々木学びとスポーツ課長】

指導者の確保については、現状のユナイテッドコーチの部分で言うと、かなり専門性を有した指導者を配置いただき、子供たちも楽しく活動できると思う。一方で、割と係るコストは高くなっている状況もあるが、質が良いということは、非常に重要なことだと思う。また今回、渋谷区スポーツ協会と一緒にあったというところで、地域の指導者を確保していくことに、今後取り組んでいく必要があると考えている。その中でクラブマネージャーやスーパーバイザーのマネジメント人材を配置しているということが、非常に良い強みだと思うので継続していきたいと考えている。

移動については、青山キャンパス以外の学校には徒歩か公共交通機関を使って通学しているが、青山キャンパスの自転車の通学の状況も踏まえて、しっかり安全性とか、その他の移動手段についても検討していきたい。

#### 【伊藤教育長】

今あったように青山キャンパスでは自転車通学を許可しているが、100台ぐらい駐輪スペースを確保している。他校でも、やはりある程度スペースが必要である。渋谷はどうしてもスペースが問題になってくる。8割の生徒が部活に入って、大部分の生徒が移動するような規模だと、とてもスペースが足りないと思う。だから移動を認めつつ、どうにかしてなるべく移動しなくてもよい設定も合わせて考えていかないといけない。仮に認めるとしても現実的には物理的なスペースが不足するということになってしまうと思うので、考えていかなければいけないだろう。やはりそのスポーツをやりたいとか、その部活動をやりたいというのは、可能だったらその学校を選択することも、実際に起こりうると思う。そうすると、自然と解決していくところもあるかと思う。ただ、蓋を開けて駄目でしたというわけにはいかないの、うまく予想も立てながら検討していかなければいけないと思う。

#### 【長谷部区長】

安全第一というのは大切。例えば、運用でできる限り、部活のある日は当然自転車で行く、ない日は歩いて行くとか、色々なやり方で限られた場所を上手に使っても良いと思う。やはりこの地域クラブに移行していった中で、部活動をやっていくと、これから1つのクラブだけじゃないと考えることも出てくるであろうし、入ってからやりたいクラブが変わるとか色々なこともあると思う。ぜひ、移動手段というのは、もちろん自転車以外も考えなきゃいけないと思うから、物理的にどこまでできるかというのは、安全第一の中でどこまでできるか、考えていただけないかなと思う。

#### 【平岩委員】

部活動の数は最終的にどのくらいの数になる想定なのか。大体のイメージで、例えばバスケットは現在全校であるが、これからどうなるのか、何校に1個ぐらいになるのか聞きたい。

【津々木学びとスポーツ課長】

統合していく形になって、半分まで減るということではなくて、7割、8割程度は残っていく。

【長谷部区長】

文化部とか、新しいものが増えると思う、確かに統合で減るところも当然あると思う。全体的には増える可能性の方があってもいいかもしれない。確かにそこはある程度検討した方がよい。

【伊藤教育長】

今回中身としてはスムーズに移行しなければいけない。その中で、マルチスポーツや兼部があるが、単純に、例えば全校に、ユナイテッドコーチが入るとか、主体が地域クラブということで、それ1つとってももちろん子供にとって少し変わったところがあると思う。兼部するかと言われると、その時点ではまだ多分、仕組みが変わった、参加費が増えた、それぐらいの感じだと思う。せっかく地域クラブ化していった、今までの部活で教育活動の一環で、活動や技量そのものもそうだが、礼儀作法とかそういうところまで含めてやるという部活動から、本当に地域クラブになるんだしたら、1つの変化としてマルチスポーツっていうのが、もっと広がっていくといいと思う。今も兼部している人もいるが、基本的に主の活動があったら、活動日が重ならない範囲でとか、そんな感じで兼部している。それが、あの人はもう兼部しているから毎日来なくてもいいよという感じの空気がもっとでき上がってほしいと思う。自分の経験踏まえても、なんとなく結局ずっと最後まで野球だけやってきたが、大学の時に、大学に入ったし別のことをやりたいということで、試してみたことがあったが、やっぱりそのスポーツごとのコミュニティのようなものが出来上がってきている。その他のスポーツもやればよかったが、最初から色々やっているのが普通だよという空気があれば自分はもっと別のことをやったかとも思ったりする。1つのことをやるのもいいが、複数やるのはあまり日本ではまだ普通じゃないと思っており、それが普通になると、この改革が子供にとってもすごく良いものになる。

【長谷部区長】

今兼部している生徒について、どのような具体的な状況があるのか。

【田丸委員】

校長先生などから、お聞きしている範囲だと、文化部と運動部の兼部はあるという話を聞く。ただ、運動部で野球をやりながら、今週はフェンシングとかいうのはなかなか、スケジュールとか、運動しすぎとか、色々な問題から、また空気感含めてなかなかしていないという話は聞く。

【長谷部区長】

地域や曜日で、こういうメニューがあるというように出てくると、もう少し兼部がしやすくなるのかと思う。

【加藤委員】

聞いているだけでワクワクするような元気が出るような話で、すごく素晴らしいと思った。1つコメントだけすると、文化と芸術もそうだが、スポーツにあえて限って言うと、医者を通してのキャリアの中でも、尊敬する先生たちというのは、結構体が頑丈だったりして、筋肉細胞にも、メモリー細胞とか神経があるんじゃないかと思ったぐらい大事だと思った。医者として、上司との面談が年に何回か海外であって、その時にジムに行っているのかとか聞かれ、行ってないっていうとびっくりされて、じゃあどうやって精神的なウェルビーイングを維持しているのかということ言われたりする。あるいは、うちの今の日本の病院では、運動会というのはすごく大事で、この間、6,000人集まって河川敷

でやったりして、組織の一体感を養うということがあって、スポーツとの関わりは、皆さんおっしゃる通りすごく大事な取組で、素晴らしいと思う。しかし、今回の話を伺っていて、教育との関わりというのが、少し見えにくいと思った。もし、教師の働き方改革とか、対象が学童とか、あるいは子供たちの多様なニーズに応えるということだけではなく、スポーツをやることで、さらに教育にも、あるいは子供たちもいい影響があるというのが、見えてくると良いのかなと思った。そういう文言があるだけでも、田丸委員が言っていたことだと思うが、例えば、部活動が渋谷区の子供たちの身体能力にどんな影響を与えているのかとか、あるいは渋谷区の新しい学校に、スポーツサイエンスセンターを置くなどを基本方針に入れると、教育との関連性が見えやすいと思う。また、将来的にそういう活動するときに動きやすいのかなと思ったが、その点はいかがか。

【長谷部区長】

強い体と強い精神力が学習意欲の向上に関係しているといったデータが出ると良い。

【伊藤教育長】

加藤委員のおっしゃるとおり、スポーツに限らず、文学部だってそうだと思うが、活動する中で得られる、7つの力という中で、色々な価値観、協働とか、挑戦とか絶対関連すると思うので、それは本当にそうだと思う。一方で、先ほど私が言った、スポーツの議論とかもあるが、特に日本のスポーツで教育という、ついつい精神的な部分が結びついてしまうというか、自己犠牲とか。そういう価値観が、私の感覚だが、スポーツの中で教育ということがすごく強調されてきたのではないかなと思っている。そこはやはり違うというようなことを渋谷区としては言いたいとは思っているので、そこは気をつけながら、教育的な価値があることは間違いのないと思って推進していけばいいのではないかなと思っている。

【田丸委員】

例えばわかりやすいところで言うと、日本では文武両道という言い方をされているが、これも実はちょっと不完全かなと思っている。むしろ、文武分けられずというのが正しいのだと思う。要するに、朝、30分少し運動すると、脳が活性化して集中力が上がるようなエビデンスも出ているようなので、加藤委員がおっしゃったように、筋肉と前向き思考とか、その辺の関連性がある可能性を考えると、分けて考えて両方だろうねというよりは、両方とも相関、あるいは何かしら関連しているという考え方が必要だと思う。

あと、スポーツも、非常に、海外ではかなりエビデンスも出ていて、例えば大学のトップアスリート以上の方たちにヒアリングしたところ、高校生までマルチに文化やスポーツ活動に取り組んでいた方が8割近くになっているということを考えると、運動する時間があったら勉強しろという考え方が、もしかしたらそもそも間違っているかもしれないということもある。むしろ勉強をしたいのであれば、運動もやりましょうといったことが今後は出てくるのかもしれないと思った次第である。

【長谷部区長】

海外が正しいかどうか、置いといたとしても、部活状況について海外の学校はどのような感じか。

【加藤委員】

データはないけれど、スポーツに限って言うと、例えば秋はアメフト、陸上、サッカーがあって、体が大きい人はアメフト、そうじゃない人はサッカーなど選択肢があって、冬は、土地にもよるが、室内陸上、バスケットボール、レスリングで、春は、野球、テニスなど、季節によってスポーツが分かれていたと思う。もしかしたら地域の環境によるところもあるかもしれない。部活の文化的なことに関しては、スポーツと、両方兼部は可能だった。特にシーズンはなかったけれど、年を通してやっていた



印象がある。中高ではそんな感じだったと思う。スポーツが何でもできる子は、アメフトやって、バスケットやって、野球をやってといった学生は結構いたような印象がある。

#### 【長谷部区長】

シーズン制という考え方も、それは授業も含めてだがそういうのは確かにある。今、青山キャンパスでは、二つの学校が合同でやっている部もある。

#### 【平岩委員】

最初分けてやるとかいう話もあったが、一部一緒になってやってくれていて、非常にいい風景だと思っている。実は、思っていた以上に、先生たちも勉強しながらやっているところである。今まだ答えは出てない話をちょっとだけでできればと思うが、放課後を大きく捉えると、他の可能性もある。その中で、渋谷には探究があって、探究をしたい子供たちも、出てくるのではないかな。あるいは、社会人の色々な人たち、例えば企業家の人と出会ってほしい。色々考えた時にも、結構放課後の時間が有効。未来共創空間が、役割をある程度担うみたいな考え方があって、本当はそういう面白い人が来て、どんどん出会うのもいいと思っている。先生たちが意外なくらい困っているのは探究の時間にそういう出会いの場を作りたいとか、探究の時間に未来共創空間を使いたいみたいなニーズがすごく強い。探究は、やはり子供だけに任せておくと自分の世界に閉じてしまうが、色々な社会との出会いにも広がったりする。そういう意味でも、その時間にみんな未来共創空間を使いたいみたいな気持ちもすごく強い。先生たちはあまり外のネットワークがないので、企業がいてくれて、企業が非常にその辺りが強いので、そこも含めて期待をされているという現状になっている。それで、結論はまだ全然出ていないが、未来共創空間の空間・機能を、授業でも使いたいし、使えるような形になるとベストなので、渋谷は、こういった地域クラブももちろん充実しているが、探究の延長線上で自分のプロジェクトをやっている子供がいるとか、そんな世界観を作れば良いのではないかなとか、未来共創空間でもできれば、これはすごく良さそうなので、中学校に配置されたらいいなと思う。同じキャストにする必要もないと思っていて、ここはテクノロジーに強いとか、ここは物づくりに強いとか、それも移動して使えるみたいな感じになると、良いのではないかなと思う。

#### 【長谷部区長】

これからも未来共創空間も含めて、学校の空間をどう有効に使うか、積極的に考えていただきたい。個人で色々調べたいことを、今までは部活に入っていないと、放課後、学校で取り組むことは、やはり難しかった。新しいものにこだわらず、この空間を使ってみてはあるかもしれない。ぜひ、どんどん実践していただいて、また報告いただければと思う。

#### 【伊藤教育長】

皆さんにお伺いするのが適切かというのはあるが、検討会の中で1つ論点になったのは、費用負担のところである。現状は、年間5,000円で、実費というか、ちょっとした遠征費とか、ちょっとした用具代ぐらいに当てている。どうしても経費で賄えない部分について、1つの考え方として、公費負担がある。一方で、スポーツ協会になったので、地域クラブ化していくということは、一定程度、参加者の方が広く負担するべきなのではないかという話がある。そういうことも渋谷でも考えていかなくてはいけない。なかなか、かかってくるものを全部を負担してもらうというのは、ここに書いてあるとおり、子供一人当たり19,000円が月にかかっているの、全額負担いただくのはさすがに無理があるという話なのだが、何かご意見があれば伺っておきたい。

#### 【松本委員】

私もこのあたりは少し考えたが、今水準として定められている2,000円から3,000円程度の月額

というのは、今までの年間 5,000 円からすると、かなり上がっている印象を与えがちだけど、純粋に地域クラブに通って、2,000 円から 3,000 円は、リーズナブルというか、合理的というか、利用しやすいような設定になっているのではないかなと思う。もちろん様々な家庭があると思うので、経済的な困窮家庭への支援策が書いてあるが、その辺りの配慮がしっかりと行き届いていれば、これぐらいの費用の負担は妥当だと思う。私としてはこれぐらいになったら、持続可能性を考えるといいと思った。

また、将来的に、地域の色々な方が一緒に参加されているのもそうだし、ボッチャもそうですし、様々なシブヤユニテッドの活動も含めて、地域活動に参加していただくような中で、その方々から少し会費をいただくとか、そういう発想もあるのではないかなとか、その方々はもしかしたらもうちょっと出していくとか、そういったことをしながら、経済的な循環を検討していくのかなということを考えている。

#### 【加藤委員】

コメントは 2 つあって、1 つ、先ほどの話と通ずるけれど、こういったクラブ活動は、子供の健やかな発育にすごく大事だということを、もうちょっと全面に出せれば、公費を負担しようという、説得力になると思った。もう 1 つ、個人負担になっているものが備品だったり、ユニフォーム代とかとあるけれど、レンタルというか個人で全部毎年毎年買うというよりは、そういったものを使い回すというような考え方ももう少しあってもいいのかなと思った次第である。

#### 【長谷部区長】

確かに工夫していただくというのは当然大切。あと、昔は、僕の思い出ですけど、後輩たちが勝ち進むと、急に OB 会が組織されて、父母会もあって、都大会の時もあって、そういうものがやりやすい仕組みというか、何か作っておく必要もあるのかなと思っている。地域クラブ化した部分に会計が全部取り込むだけみたいにしてできるのかなど、色々な考え方をしないといけない。その経費については、もちろん公費で負担していくというのはある程度はあると思うが、ただ、中学生は学校の教育の一環で部活動があるので負担していくが、小学生とか高校生とかは、もう少し原価に近い形でいいのではないかなとか。もちろん、生活困窮者については、サポートするけど、全体的にこの事業が儲かって黒字になるというのはなかなか難しいとはもともとと思っている。ただ、例えば年間 3 億とか 5 億の今までかかっていなかったここへの投資によって、全体的に区民の健康が上がっていたり、そのスポーツに取り組む数字が増えていけば、それはその価値があると思うので、僕はいいと思っている。だから赤字で良いって言うこと言っているわけじゃない。色々な工夫をしながらやっていってもらいたいし、それを見つけておかないと、持続性というかこのスタイルは他の町ではできないみたいなことになりかねない。

#### 【田丸委員】

やっぱり今まではいくらかかるかというのがまず分からない。雰囲気としては、部活とか教育的なことだからお金はかからないような雰囲気があったけど、例えばこうやって具体的に(1)から(11)までを示していただいたことだけでも見える化することで、これだけかかっているのだというような納得感が重要かなと思う。その納得感の中には、例えば、指導者も専門資材がついているとか、これもまた納得感になるでしょうし、あるいは先ほどのデータなども、今はフィジカルデータを取っていたり、その成長がどの程度見られるのか、あるいは子供主体の活動だといっているのだから、主体性も見える化を図ってデータ化をしようとしていたり。例えばその主体性だとか、体の発育発達がどうやら良くなっているというようなものを見る化していくと、このクラブ活動がどれほど教育にとって良いものかとわかればこの 2,000 円 3,000 円、もしかしたら非常に値ごろ感があるように思われる可能性もあるので、色々なものを見る化することは非常に重要だと思う。

あとはデータ化すると、そのデータを使って、様々なプロダクトで子供たちを支えたりできる企業が現れたりとかですね。疲労回復の子供の入浴剤を作りたいとか、そういったことも可能性もありますし、人材活用にも繋がるが、今、NTT 東日本が、社員の方を部活動指導員として送っていただいている。会社の方が行くことで健康になるとか、あるいは地域連携を図るというような会社の思いも実現できる場としての部活動ということもされていらっしゃるの、そういった方たちの企業も巻き込むことで、実はお金をいただくだけではなく、経費を削減できる能性もあるので、色々な角度から効率化を図っていく必要があると思った次第である。

【平岩委員】

私は、当然いただくべきくらいの考え方である。後で値段を上げたりするのは、すごく大変なので、ある程度最初から費用はとっていいと思う。習い事だと、週に1回で、8,000円とか10,000円とか、プログラミング教室は何万というのもあったりする。部活で週に何回もやっているのであれば、いただくのは当然と感じる。もちろんこの困窮家庭への支援というのはマストだと思っている。あとは、施設を貸すとか、企業の協賛とか、部活動を支援するという面目がはっきり出くると、寄付も集まりやすい分野だと思うので、その辺を総動員して、公費を少し抑えながらっていうことは考えられる。

【長谷部区長】

寄付とかだけでなく受け皿については、やっぱりもう少し考えたほうがいいと思う。区の方の課題でもある。

【田丸委員】

区の事務局の方たちが、検討委員会の資料の中で示されているが、この部活動をいずれ総合的な地域クラブにしていくときには、賛助会員のようなものを見据えているということも聞いています。寄付や負担額が多い人がいるとか、多分町全体のクラブになっていくということも検討されていると聞いているので、そこが1つのポイントなのかなと思った。

【長谷部区長】

最終的には、本当に20年とか続くと、今の子供が大人になる、その子供が大人になって、支える側になってもらえる。他の区に転出したとしても、自分の部活の母校のチームを応援しようとか、そういった形もあると思うので。

これからデジタル化でいろいろできるわけだから、これはぜひ早めに取り組んでほしいと思う。

【伊藤教育長】

今の話で言うと、本当は部活に限らずに母校に寄付したいという気持ちは絶対あるかなと思って。私も必ず高校から連絡が入って、毎年出している、そういう連絡もらえれば出すけどみたいな人も絶対いるから、母校のためという気持ちは大事にできるのではないかな。

【長谷部区長】

確かに私学であれば、それは普通にやっていること。公立でそれは当然なかったわけだが、まさに部活は共感する人は結構多いかなと思うので、取り組んでいただけたらいいと思う。あと、周年行事も考えている。OBのネットワークはやっぱり持っている学校と持っていない学校があるみたいだが、これから建て替えとか、最後みんなで集まるとかそういうときに会員募集してもいいかもしれない。是非、ちょっと早めにそれは取り組みましょう。

他にいかがですか。だいぶ尽きてきたっていうのもあるが、基本的にはおおむね、今やっている取

組は、どんどん背中を押していただいているような発言だというふうに思う。教育との連携というか、どう繋がって効果が出ているか、そういったデータに基づいていたり、すぐ調べるようにすると確かにと思うし、やっている活動が、ここで集まると変わってくると思いますし、勉強したいと思った。あとは移動手段についてしっかり考えていかなければいけないし、もともとそういったつもりで整備していないので、自転車の置き場所をどうやって確保していくかを含めてである。移動に1時間かかって、練習が2時間できるところが1時間しかできなかったみたいなことはやはり良くないと思うので、うまく考えていかなければいけない。デマンド交通とか、いざとなったら中学生利用もあるかもしれないとか、学校を回るコースにするとか可能性はある。バスを出すよりも、それを補助している方が断然安い。可能性は色々、区内の移動って、もしそれが大多数なら、子供たち以外も使えるはずである。

【津々木学びとスポーツ課長】

教員の兼職兼業について、基本方針の4の(8)、国の方針では、やる気がある先生たちには、できるだけ兼職、兼業をやってもらうことが、大きな流れではある。渋谷区の場合、平日も一体的にやっていることもあり、原則としては認めないという整理をしている。その点について、何かご意見があれば、教えていただけるとありがたい。

【長谷部区長】

現状はどうですか。

【安部教育指導課長】

今全国的にも、部活の地域展開、外部の事業者が入ってきているっていうことについて、理解が進んでいるところがあるので、特に区内の、すごく熱心に部活をやりたいという方が減ってきている。逆に、部活に関わらないことによって、本来の授業のまとめであるとか、探究であるとか、こちらに力を入れることができているということで、おおむね理解をいただいているかなと思うが、やはりそれでも部活動が好きでやりたいという方がいた場合は、柔軟に兼業兼職というような、校長先生と相談して受けるという形で、よろしいかなと思う。

【長谷部区長】

具体的に今の渋谷区内の先生の中で強く部活動、これがやりたいなっていうことはないのか。

【安部教育指導課長】

代々木中の柔道部の顧問に、そういう方がいらっしゃる。他には伺ってはいない。

【長谷部区長】

アンケートでもらえたところでも、ユナイテッドのコーチが入ってくれることによってポジティブな回答がすごく多かった。なので、この方向ではいいかなと思うが、皆さんいかがですか。

【平岩委員】

良いかなと思う。確かに一部、中学校の先生の方に対しては、部活のために先生になった方も存在はするけど、人事異動がどうしてもあるので、固定化されるっていうよりは、基本はなしだけど、どうしてもとなった場合に相談できるみたいな形でいいとは思っている。青山キャンパスの先生たちと、この夏前ぐらいに1人ずつ面談したが、基本的にはやらないことを喜んでいて、そのおかげで時間ができたという声がいっぱいあったので、とても良いと思った。

資料を見ていると一部、小5・小6が参加できるという仕組みになっているのもやはり良いところ

だと思う。それによって渋谷の中学校に進学しようみたいなことも生まれてくるので、その制度がもうちょっと広がるといいと思う。

【長谷部区長】

小5・小6が参加できるフェンシングの話をちょっとお願いしたい。

【田丸委員】

コンタクトスポーツ以外は体の大きさだとか、フェンシングとか、例えばサッカーとかも一部受け入れてるんですけども、激しいぶつかり合いがあるとかだと、ちょっと体格差があるので難しいところがあるが、小学生も受け入れているものもある。小学校5、6年生、それから中学生の意識調査を見ると、やりたいものは大体小学校5、6年生で決めているという子が一定程度いる。ということは、中学は中学だけで考えるというよりは、平岩委員がおっしゃったように、小学校から見っていくという必要がある。しかも小5小6の部活はおそらく翌年の部活動になるとすると、今、中学校の先生方の認識合わせができているんですけど、もしかしたら小学校の先生と小中一体みたいなものをやっていくというのが一つの意義になるかと思った。

【伊藤教育長】

本町学園は、学年の分け方が一応、便宜上5年生から中学年になっているので、部活を5年生からとすることは可能である。一貫校は、場所の移動が必要ない。小学生は確実に移動しなければいけないので。ただ、時間的に、少し早く終わることも多いと思うので、学区内であれば普通に歩いて移動してねということでも5、6年生であれば大丈夫かなと思う。

【平岩委員】

どれか強くなる部活を作ってもいいかなと思った。よく強化校、私立なんかやりますよね。なので、この中のどれが良いのかわからないところもあるけど、とにかくこれは強いってというのがあったらいいと思う。

【長谷部区長】

そうすると、みんな、区民全員で応援するようになる。

【津々木学びとスポーツ課長】

今後この方針を示した後、丁寧に周知をしていく必要があると思っている。効果的な周知方法などあれば、教えていただけるとありがたいかなと思う。

【長谷部区長】

やはりユナイテッドの宣伝をどんどんしていく。それをタブレット使ってやってもらったり、小学校の時に伝えるってことは結構重要なので、今中学校こんなものがあると、学校公開とか学校訪問とかで見てもらうのがある。そういったときには当然積極的になってほしい。本当に受験を考えている小学生の家庭が結構多い中で、渋谷の学校だったらこんなことができる、学校が今綺麗になっているとか、非常に魅力を感じてもらっているが、そういったことを積極的に塾と同じように周知してほしい。先ほどいただいた5、6年生も含めてできる種目を増やしていくとか、アクセル踏んでいくのが必要かもしれない。

【平岩委員】

そういう意味で言うと、放課後クラブを小学校でやっているの、コーチの方がちょっと空いてい

る日は放課後クラブでサッカーをちょっとやるとか、そういうのはあり得る。5、6年生だったらクラブの方に行くってなったけど、それまではコーチが行ってあげるみたいな考え方はあるかなと思う。あと、中学生が来てくれるとか。ダンスとか、部活の子たちが小学校に来てくれているところも結構良い。彼らにとっては面白いので、そういうことも含めて、小中一体で考えていくみたいな考え方を少し広げてもいいと思う。

#### 【松澤副区長】

私が気になっていたのは、1つは、その部活動のあり方みたいなところの中で、先ほど御指摘もあったけれど、みんなが参加して、わいわい楽しくて、誰が来てもよくてというようなレクリエーションっぽい形なのか、今後の検討課題なのだけれど、さっきおっしゃったような、競技志向型で強くなることをむしろ求めていくのかということである。この地域クラブで、より多様な方々が参加する中で、どういう形の地域クラブとしてのあり方を進化させていくのかということの整理が必要と思っている。費用感、それと裏表の議論であると思っており、もちろん民間ほどお金を取るってことはありえないけれども、他方で受益者負担というのもあるし、全員が全員、良いコーチの高いレベルの指導が受けられるわけではないところ、希望をしているわけでもなければということを考えると、やはり公平性とかという部分もあるのかなと思っている。皆が誰もが来て楽しくて、教育の一環や、スポーツで健康づくりというのは、区の政策としているところについては、補助金をもちろん多く入れて、受益者負担もミニマム意識していく。他方でむしろ強くなっていきたいし、民間よりは安く、非常に良い、細かいサービスを受けられるということになってくると、その辺りの決め方の考えが釣り合うということは、今後の部活動というか、地域クラブのあり方の関係で整備をされていくことなのかなと思っているので、将来的にはその辺りも是非議論できればと思っている。

#### 【長谷部区長】

部活動が整理されてきたとき、例えば1番強い学校は遠慮して隣の学校に入ったけど、強い学校に行きたいとなったら移れるかどうかなど、想定しておいてほしいと思う。

これをもって、令和7年度第1回渋谷区総合教育会議を終了する。